

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 1 8	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Risk drinking behavior among psychotropic drug users in an aging Finnish population: the FinDrink study.          高齢化するフィンランド人集団における向精神薬服用者の危険な飲酒習慣: フィンドリンク疫学研究</p>	
執筆者	
Ilomaki J, Korhonen MJ, Enlund H, Hartzema AG, Kauhanen J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol. 2008 Jun;42(4):261-7. Epub 2008 Apr 8.	
キーワード	
向精神薬・抗不安薬・精神安定剤・飲酒習慣・フィンランド	
要 旨	
<p>向精神薬服用およびアルコール消費は高齢化の進むフィンランド人で増加している。アルコールとベンゾジアゼピン系およびその他の向精神薬との併用は推奨されていない。同時併用することによって事故やその他の重大な事態を引き起こす可能性がある。</p> <p>本研究の目的は向精神薬服用者の飲酒習慣を高齢化の進むフィンランド人集団で分析することである。この研究は現在進行中のフィンドリンク疫学研究の一部である。1998～2001年に行われたクオピオ虚血性心疾患危険因子研究の自己申告による飲酒習慣と向精神薬服用についてのデータを用いた。この調査全体としては 854 名の男性と 920 名の女性が参加した。204 名 (11.5%) が定常的に向精神薬を服用していた (女性の 14.2%、男性の 8.5%)。集団の 4 分の 3 が調査前年に習慣的に飲酒していた (女性の 68.9%、男性の 87.5%)。抗不安薬と精神安定剤を使用している男性はしていない群と比較して、週 2 回以上飲酒する頻度 (オッズ比 2.42)、1 回で大量飲酒する頻度 (オッズ比 1.86)、および総飲酒量が多い頻度 (オッズ比 2.22) が有意に高かった。女性では薬剤使用の有無にかかわらず飲酒量・飲酒パターンに違いはみられなかった。</p> <p>この結果より、高齢化するフィンランド人集団で向精神薬を使っている群にアルコール関連健康障害を起こす危険性があることが示唆された。</p>	